

## 第22回 盛岡市民演劇賞 観客賞投票結果



投票受付期間: 令和6年4月1日(月) 10:00～令和6年7月14日(日) 21:30まで

投票総数: 20票(うち有効票数17票)

公演団体	公演名	獲得票数	推薦理由
ライナー・ノーツ	だからあやふやな窓で	3票	<p>◇心を動かされた</p> <p>◇個々の関係性が交錯しては離れていって、コインランドリーでやがて1つの物語になるという構成に感動した。見終わった後に人間の不器用さを愛おしいと思えるような素敵な群像劇だった。</p> <p>◇上演時間の長さを感じさせない位、集中して見れました。登場人物の関係も面白い。</p>
片目で立体視	片目で立体視の空間飛行	3票	<p>◇第1章は、不思議な舞台からはじまり、1人で終始演じ切り、その演技に引き込まれた。さらに、第1.5章の現実的な空間での話し、第2章の銀河系の賑やかな舞台、第3章では、同じことの繰り返しかと思っていたが最後には考えさせられる様な内容でどれも印象に残る演劇でした</p> <p>◇・ソラリス星人になり、各星々に行ってみたいと思います。 ・役者さんの表情、セリフのトーンや間のとり方で、心情や状況が伝わって来ました。(全作品最も) ・4章それぞれに強く、刺激を受けました。 ・背景に気をとられなくて、役者さんをじっくり見て満足しました。</p> <p>◇素敵な短めの劇がサクッと数本観れて楽しかったです。たかしの星が好きでした。</p>
八時の芝居小屋第187回公演 八時の芝居小屋制作委員会 プロデュース	地の底にて —At the bottom of underground—	3票	<p>◇盛岡を代表する劇作家2人。その二人芝居に心が墮ちた。今後この作品は後世に語り継がれると思う。</p> <p>◇なんだか分からないのに、もの凄い説得力があった、ような...??? 楽しそうで良かったです!!</p> <p>◇岩手県で育ち、岩手県でしか味わえない、藤原瑞基の演技と彼独特の哲学は、まさに岩手県が自信と誇りを持って全国にお勧めできる、岩手ならではの特産品である。地方演劇と都市部の演劇との決定的な違いは、その主たる矢印が、経済的な生産性を最優先する商業主義であるのか、それとも自らのスタイルの果てしない追求をまるで信仰のように積み上げる芸術主義なのかである。</p> <p>どちらが良いか悪いかではなく、都会では職業としてしか残っていない伝統芸能というものが、地方では各地で神楽という形で残っているように、地方にはまだ、芸術や文化活動は金銭の問題ではなく、人が生きていくのに不可欠な要素だという感覚が人々の暮らしに密着した形で生きている。</p> <p>本作品は、その手法には、観客それぞれ個々に好みは分かれるだろうが、生きている人間と人間が、劇場だからこそ同じ匂いを嗅ぎ同じ緊張感の中、行く末を体験するという臨場感に満ちていた。</p> <p>高村明彦の、深く自らを出し切りながら、それでいて抑制も効かせる、アクセルとブレーキを駆使した演技も、さすがといえる熟練の腕前。</p> <p>演劇は、この舞台のように、自由で、それでいて、どこまでも自分の恥ずかしさと葛藤しながら、限界に挑んでいくものであってほしい。</p>
劇団ゼミナール	次の魔女は誰だ!	2票	<p>◇初演を知りませんが、大変完成度の高い舞台でした。舞台美術、衣装、音響効果、演技等、どれもインパクトや説得力がありました。だからこそなのだと思いますが、見えている物語には少し疑問が残る消化不良の感じがしました。例えば、なぜ演出家だけが断罪されずに終わるのか。劇中劇はもっとずっとつきようで演出ももっとへっぼこなのではないかと。もしかしてすべて演出家の脳内幻...? などと観終わった後モヤモヤしました。とはいえ、ラストに一定のカタルシスがあったのは間違い無いですし、観劇から何カ月も経っているのにこんなにいろいろ考えさせてくれるなんて、すごいです。そういう意味でも「特に良かった」作品として推したいです。</p> <p>◇盛岡演劇界で活躍している若手の役者、演出家、スタッフを選出して素晴らしいリバイバルされた作品でした。</p>
演劇ユニットせのび	夏に冬は思い出せない	2票	<p>◇記憶や、忘却を想像させられる芝居でした。</p> <p>◇舞台上だけでなく、客席まで温かく包まれるような作品。記憶、忘れること、覚えていることについて優しく許容してくれるような内容で印象に残ったから。</p>
ボーイズドレッシング	I それでも地球は青かった	1票	<p>◇最初普通の高校生の日常化と思いきやどンドンSFっぽくなっていき、どこか観念的な世界へと行きついたような不思議な舞台でした。</p>
ボーイズドレッシング	II 赤い耳	1票	<p>◇キャストのハマリ具合といい演出といい、何から何まで良かったです。もちろんキャストも魅力的でしたが、脚本・演出・舞台美術・照明などで作り出される世界観が彼らの魅力をこれでもかというくらい引き出していたと思います。完成度が高いという言葉がチープに聞こえてしまうほどに、素晴らしかった。どこかで起きている現実の世界を垣間見たのではないかとと思うくらい、のめり込んで魅了された時間でした。</p>
八時の芝居小屋第185回公演 どろぶね	ひとりのふたり「ノアの泥船」	1票	<p>◇“学生が、講義の課題の準備が進まないだけでこの世の終わりのような気持ちがある”ことと“被災県の出身者だが被災者ではないことで後ろめたさ”ことを、20代の血の通った言葉で表現していた。</p> <p>これは、ウクライナやガザで犠牲になった数万人が、この作品の人物のように、私達と同じ人間だという当たり前の事実をも表している。</p> <p>現代的でありながら普遍的なテーマを実感できる作品。</p>
岩手大学 劇団かっぱ	かっぱのげきだん	1票	<p>◇荒削りなどころはあれど、一人ひとりが真剣に向き合っているその姿勢に心撃たれ投票しました。</p>

～投票へのご協力、ありがとうございました～